

## C：審査会の意見

事業名	「アクティブ防災」でつくる、手をつなぎたくなる街平塚の防災力強化プロジェクト		
事業開始年度	平成31年度～	提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
団体名	NPO法人MAMA-PLUG	担当課名	災害対策課

## (1) 良かった点（さらに伸ばして欲しい点）

※ 単独より協働でのメリットや、先駆性など事業の良い点・他事業も参考にして欲しい点など

- ・防災セミナーやピクニックの参加者アンケートから、防災意識の高まりや具体的な行動開始（防災グッズを点検・準備する、他のママパパにも受講をすすめるなど）の効果があつたことがよく分かつた。
- ・団体による完成度の高いプログラム実施に加え、協働事業終了後の事業継続イメージを描きながら、災害対策課職員向け研修など団体のノウハウ習得の機会も設け、持続可能な体制づくりの準備をしてきたことは評価できる。
- ・どこの地域でも若い子育て世代へ防災を伝えることが難しい中、協働事業として、防災ピクニックやセミナーを実施できたことは、平塚市として大きな成果があつたと思う。
- ・コロナ禍で事業実施が困難な中、成果をあげていると思う。
- ・団体と担当課それぞれの地道な努力の結果、想定外の会場の変更や中止になつたセミナー内容を次の講座に組み込むなど柔軟に対応し、着実に若年家族層の防災意識の向上が図れたと思う。
- ・コロナ禍でも参加者数に一定の制限を設け、事業実施されたことは良かったと思う。
- ・団体は行政の情報収集の詳細な方法等を、行政は継続して事業を実施するためのノウハウをそれぞれ習得でき、事業実施の効果は大きいと考える。

## (2) 課題の改善や今後への助言など

### ※ 改善して欲しい点や今後の事業展開へ向けてのアドバイスなど

- ・ 今回の協働事業で培われたノウハウが市の中で継承されること、防災に関心の高い子育て世帯や若年家族層に対し、地域防災活動への参加やネットワークづくりを後押しするような働きかけに期待している。
- ・ 平塚市全体の防災力アップのために、主体的に動ける市民を増やしていくことも重要だと思う。
- ・ 「保護者が自宅でも受講できるよう、オンライン開催も視野に入れ検討」とのことだが、コロナの感染状況にかかわらず、小さな子どもを持つ家庭にとってメリットも大きく、参加者のオンライン事業への参加のハードルも低くなってきていると感じる。セミナーやピクニックなど、動画配信ではなく Zoom など双方向コミュニケーションが可能なツールでの開催であれば、内容的にも満足度の高い事業ができる可能性は十分にあると思う。
- ・ 協働事業終了後も子どもが体験できる防災事業を良い形で継続してほしい。
- ・ 防災ピクニックなどは少年消防クラブ等と一緒に実施してみてもどうか。
- ・ セミナー終了後、参加者にきちんとアンケートを取り、子育て世代が心配していることなど知りたいことが分かった事業であったと思うが、「HIRATSUKA 親子防災」は予算がある割には薄い冊子だと感じたことから、今後、内容を増やすなどさらに充実させてほしい。
- ・ 平塚市が実施している「ブックスタート」などで絵本とともに親子防災冊子を一緒にいれるなど、成果を継続して PR していくことが大事だと思う。
- ・ セミナーに繰り返し参加してくれたママたちが防災に関心を持ち、市民活動団体を組織して活躍してくれる方向性を願っている。
- ・ 小さいお子さんのいるご家庭での防災への取り組みを先輩市民が後輩市民に教え伝えていける様な組織が生まれるように受講した市民をサポートしてほしい。
- ・ 市が今後、単独で取り組むという姿勢は評価するが、市内のNPOやボランティア等のパートナーを得ることも考えてはどうか。そのことが、参加者を増やし、防災活動を広げることになると思う。
- ・ 協働事業で得た成果を活かし、市民サービスが向上するよう努めてほしい。特に組織としての継続性を意識して事業を進めてほしい。
- ・ 今後、防災セミナーは災害対策課が継承することとなるが、行政が主催となると堅苦しくなったり、男性目線となったりすることが考えられるため、女性ならではの視点や生活者の視点を持ち、受講者が子どもと一緒に楽しめる、友人や家族に勧めたくなるような内容や雰囲気づくりに努めてほしい。
- ・ 担当課が事業を継続し、事業参加者がお住まいの地域で教える側の人材となるように、人材育成の視点も検討してほしい。

## C：審査会の意見

事業名	図書館におけるボランティア体験を通じた不登校・ひきこもり改善・自立支援事業		
事業開始年度	平成31年度～	提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
団体名	NPO法人ぜんしん	担当課名	中央図書館

## (1) 良かった点（さらに伸ばして欲しい点）

※ 単独より協働でのメリットや、先駆性など事業の良い点・他事業も参考にして欲しい点など

- ・すぐに結果が出るものではない不登校・ひきこもり支援の取り組みに対し、ステップアップの仕組みを丁寧に構築し、当事者の視点や参加の機会も取り入れながら、ひとつひとつ着実に準備をすることで、事業継続の基盤を整えることができたことは良かった。
- ・報告書や報告会を通して、団体と図書館が目的を共有し、ボランティア体験者の皆さんも含めて、とても良い関係性で3年間の協働事業を実施してきたことが伝わった。
- ・図書館のホームページに掲載されている「一步ふみ出すきっかけになった本」の紹介は、とても素晴らしい取り組みで、まさに今回の協働事業がきっかけとなって生まれた大きな成果だと思う。
- ・団体と図書館が地道に信頼関係を構築して、ひきこもりの当事者に寄り添う事業を進めた事がうかがえる。
- ・当事者たちが落ち着いて将来のことを考えるきっかけの場所として図書館との事業はふさわしいと思う。
- ・ボランティア体験をする人数を増やすために制作した動画は評価できる。PRに活用すると先駆性につながる。
- ・図書館という誰でも気軽に行けるが静かで落ち着いた場所を利用して、青少年の心のケアに取り組もうという団体と図書館の姿勢が素晴らしいと思う。
- ・図書館側の的確な受け入れもあり、事業として成功していると感じる。また、継続の方針が決まったことも大きな成功である。
- ・本事業を進める中で、ボランティア体験作業に役立つマニュアルや動画ツールを作成したことにより、ボランティア体験を希望する若者が、円滑かつ着実に業務体験ができるようになるため、より多くのひきこもり当事者へのアプローチが図れると考える。
- ・ボランティア体験に参加していた当事者が、別の当事者にボランティア活動を教える側になった者がいたとの報告があったので、事業参加がひきこもりから脱する一歩につながれば、実施の成果としては大変大きいと思う。

## (2) 課題の改善や今後への助言など

### ※ 改善して欲しい点や今後の事業展開へ向けてのアドバイスなど

- ・図書館ボランティア体験事業が今後も継続し、また、協働事業で制作したマニュアルや教材、心温まる動画を積極的に活用しながら、他の図書館等でも活動が広がることを期待している。
- ・図書館側としては、ひきこもりの当事者が本の修繕や整理をすることで利便性を得ることより、ひきこもり支援事業をしている図書館というイメージを大事にし、「当事者が修繕した本」などを市民に広く紹介してほしい。
- ・図書館というボランティア作業の居場所を確保できたことから、団体スタッフや他の仲間との楽しい雰囲気伝える動画を作成してもよいのではないかと。
- ・協働事業が終了してからも、団体と図書館が良好な関係を維持し、就労のきっかけとなる体験を実施していけることを願う。
- ・報告会で流した動画をもっと対象者向けにアレンジし、SNS等を利用して多くの青少年の目に留まるようにすると、図書館ボランティアをやってみたいと思う方も出てくるのではないかと。
- ・ボランティア活動として定着させながら、図書館の立場というよりは、市の方針として、就労支援の場、あるいは、就労準備支援の場として開拓するチャンスではないかと。
- ・協働事業で得た成果を活かして、市民サービスが向上するよう努めてほしい。
- ・復学、就労等は、一朝一夕には進むものではないことは承知しているが、一人でも多くの人たちが自立できるよう、今後も活動してほしい。
- ・今後、マニュアルや動画などを活用して事業展開していくとのことだが、これらを有効に機能させるためには、アップデートとブラッシュアップが必要となるため、事業終了後も図書館と団体が十分に連携を図っていく必要があると思う。
- ・今年度の図書館でのボランティア活動には、団体職員への謝礼等の予算措置はされていない。3年間の協働事業の経験を生かした取り組みの継続を図書館及び団体の双方に期待している。
- ・事業を継続するための必要最低限のものは、協議により確保すべきと思う。

## C：審査会の意見

事業名	平塚市生物多様性保全推進事業		
事業開始年度	平成31年度～	提案型	<input type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input checked="" type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
団体名	ひらつか生物多様性推進協議会	担当課名	環境保全課

## (1) 良かった点（さらに伸ばして欲しい点）

※ 単独より協働でのメリットや、先駆性など事業の良い点・他事業も参考にして欲しい点など

- ・3年間で「市内の生物の生息状況を調査・分析」し、市のアクションプランの基礎資料となる「自然環境評価書を作成」という大きな目標を、市と多くの経験・専門知識を持った市民とが一体となって、着実に達成できたことに敬意を表す。また、評価書の発行、市ホームページでの公開のほか、パネル展示やSNSによる発信など、平塚市の生物多様性の豊かさを様々な手段で広く市民に伝えようとした広報の取り組みも評価できる。
- ・コロナ禍でも多くの工夫をし、調査を進めて「自然環境評価書」が完成したことに敬意を表す。
- ・「自然環境評価書」は調査結果や分析だけでなく、生物多様性保全の課題や対策の必要性も記されており、大変見応えがある。
- ・団体の専門性を担当課が上手く活かしている取り組みだと思う。
- ・評価書は十分な内容である。また、概要版は分かりやすく、多くの人に理解しやすい内容であると思うので、的確な協働事業であると思う。
- ・専門分野ごとに、広範囲の地域データ収集などの各種調査により多くの基礎データが得られており、この調査結果をもとに、この事業の成果として自然環境評価書がまとまった。豊富なデータと分析により、生物多様性の現状が見える化した「自然環境評価書」は、この事業に関わった多くの人の熱意が感じられ、興味を持つ市民が自然環境の多様性を理解する上で大きな役割を果たすと考える。
- ・コロナ禍にも拘らず、様々な専門性を有した団体等の協力を得て、予定どおり「自然環境評価書」をまとめたことは称賛に値する。

## (2) 課題の改善や今後への助言など

### ※ 改善して欲しい点や今後の事業展開へ向けてのアドバイスなど

- ・ 今回の協働事業を通して確認された様々な環境課題の解決に向けて、引き続き市と団体が連携・協力し、より多くの市民に関心を持って生物多様性の保全活動に参加してもらえよう、啓発事業にも積極的に取り組んでほしい。
- ・ 環境に関する色々な団体が連携してこの事業を成し遂げたが、今後もその協力体制を継続して発揮し、環境教育などの先駆的な取り組みを広めてほしい。
- ・ 平塚の自然と生物多様性の環境を守れるよう、気候変動における環境変化や開発に伴う影響を周知することや、イベントや学習会等も開催し、市民全体の環境保全意識を高揚してほしい。
- ・ 環境評価書はとても良く出来ているが、一般の市民には分かりにくいので、身近に居る鳥や昆虫などの生き物と私たち人間との共生の為にも私たちの暮らし方を見直す必要があるというメッセージ性のあるアプローチ方法を考え、分かりやすく環境保全に導いてほしい。
- ・ 担当課としての今後の展開、団体としての今後の展開について、具体的な計画を示してほしい。
- ・ 既にパートナーとしての関係はできていると思うが、生物多様性保全全体について、市民の理解を深めるための協働のあり方について団体のためにも、担当課のためにも計画を立ててほしい。
- ・ 協働事業で得た成果を活かして、市民サービスが向上するよう努めてほしい。
- ・ 今回の成果物である「自然環境評価書」をもとに、生物や植物のイラストや写真などを中心に内容をより分かりやすくした、子どもや生物多様性に関心の薄い市民向けのダイジェスト版があると良いと感じる。
- ・ 今後、より多くの市民に生物多様性の啓発ができるようなアクションプランの作成を期待している。
- ・ アクションプラン策定にも団体の知識等を上手く活用してほしい。また、アクションプランは、様々な市施策に活用されるよう期待している。

## C：審査会の意見

事業名	着地型観光プログラムの開発とイベントの周知及び実施		
事業開始年度	令和2年度～	提案型	<input type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input checked="" type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
団体名	ひらつか着地型観光 推進委員会	担当課名	商業観光課

## (1) 良かった点（さらに伸ばして欲しい点）

※ 単独より協働でのメリットや、先駆性など事業の良い点・他事業も参考にして欲しい点など

- ・コロナ禍の観光事業ということで、身動きがとりづらい中、「平塚の新しいイメージやブランドを創り出す」という目的や、理想の実現に向けての現状課題について、双方で共有し、話し合いや学びを重ね、改善しながら前に進むことが出来ていると思う。
- ・着地型観光として、色々な魅力的なプログラムが実施できたことは評価できると思う。
- ・着地型観光の中で「街まるごと学び舎」とネーミングしたことは、具体的なイメージが分かって良かったと思う。
- ・様々な努力をされていることは理解し、また評価できる。
- ・目標としていた新規プログラム10個の開発には至らなかったものの、コロナ禍の状況にあっても、新規の6プログラムを含めた合計9プログラム実施して、着実に事業を進めており、努力した結果が出ていると思う。
- ・参加者からのアンケート調査から高評価であることが報告されており、個別の取り組みは評価すべきものと考えている。

## (2) 課題の改善や今後への助言など

※ 改善して欲しい点や今後の事業展開へ向けてのアドバイスなど

- ・より良いものを生み出したいという意欲に体制が追い付いていない印象である。特に継続的に関われる広報担当者をしっかりと確保すべきだと思う。事業名にもある「イベントの周知」は、開催案内だけではなく、イベントの内容を様々な手段で魅力的に伝える開催報告がとても重要だと思う。平塚の知られざる魅力を知り、ぜひ行ってみたい、と思ってもらう市外のファンを増やすためにも、広報・発信力の強化を期待している。
- ・交流会や勉強会を通して、協力してくれる人材を増やすことや着地型観光としての特色のありかたを学べたと思うので、その成果を発揮した上で斬新な企画を立ててほしい。
- ・平塚の観光イメージをアップさせるためにはアトランダムに色々プログラムを増やすだけでなく、一つのテーマを深く掘り下げて「〇〇のまち」とする方法もある。例えば「囲碁のまち平塚」など平塚に行けば、囲碁の楽しさを体験でき有名な棋士にも会えるなど色々な角度からイメージを鮮明にし、全国にアピールするオリジナルな取り組みをして

ほしい。

- 平塚で体験できるプログラムの紹介はできていると思うが、事業の目的が参加者や外部の人たちにきちんと届いていないと思う。「着地型観光」の意味を団体と担当課がきちんと整理して「観光」との違いを理解していないとプログラムとして完成しないのではないかな。
- 簡単には成果が見えにくいテーマだと思うが、イベントがいろいろあるというところに留まっていないかな。
- コロナ禍の中で十分に成果が達成されない可能性が事前に想定される場合は、事業を見送るなどの検討をするべきであった。
- 実施内容を再確認し、貴重な税金を投入する価値がある着地型観光の姿をみせてほしい。
- 令和4年度が最終年となるため、3年間を通した事業の課題の整理を今から準備するとともに、担当課と団体の2者だけでなく、この事業に関わる関係者や市民や団体などとのネットワークも構築しておくとその後の展開につながると考える。
- 既存の観光資源を発掘、活用することに加え、開発する視点で取り組みをしてほしい。
- 来年度以降の事業の推進体制が明確にされていないことを不安に感じる。現時点では事業収入による組織の自立は不可能な状況であり、その点からも事業継続に不安を感じる。



## C : 審査会の意見

事業名	平塚市食品ロス削減事業並びに相対的貧困解消事業		
事業開始年度	令和2年度～	提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
団体名	NPO法人 フードバンク湘南	担当課名	環境政策課

## (1) 良かった点（さらに伸ばして欲しい点）

※ 単独より協働でのメリットや、先駆性など事業の良い点・他事業も参考にして欲しい点など

- ・この事業を通して、企業からの寄付が増え、結果的に食品ロスの削減につながったこと、コロナ禍で増えた生活困窮世帯、年間延べ約1万人への無償支援ができ相対的貧困解消につながったこと、さらにこの課題に対する社会の関心度や団体への信頼度が増し寄付金やボランティアが増えたことなど、副次的な大きな効果があったことは理解する。
- ・フードバンクの活動と成果はとても社会にとって欠かすことできない大事な取り組みになっているため、今回の協働事業でWEBアプリが構築された事は画期的なことである。
- ・事業名にもなっているこの取り組み自体は大変重要なことだと思う。また、一定の成果も出ていると思う。
- ・厳しい条件の中で（食品現物以外の寄付がなかなか得られていない中で）、成果をあげていると思う。
- ・WEBアプリの開発をきっかけに、団体や企業の認知度が向上したこと、協力企業を獲得するための周知活動や営業によりフードバンクの活動への理解が進み、企業とのつながりや寄付支援数が伸びたことは良かったと思う。
- ・コロナ禍でも企業からの食品の寄付等が着実に伸びていることや安定的な倉庫の確保の見込みであることが報告されており、事業実施に係る評価すべき点と考えている。

## (2) 課題の改善や今後への助言など

### ※ 改善して欲しい点や今後の事業展開へ向けてのアドバイスなど

- ・この事業で開発した事業者向け **WEB** アプリの使用料を団体の運営費用に充てるという当初目標を達成するために、広報戦略を見直すことに加え、営業できる人員を増やす（あるいは担当者が営業活動に専念できるよう、他の活動でのボランティアを確保する）など体制の見直しも必要だと思う。
- ・コロナ禍がまだ続いているが、協働事業であることから、担当課と協働で営業活動に力を注ぎ進展させ、登録企業を増やして安定させることが今は最重要な活動になると思うので、さらに頑張ってもらいたい。
- ・**WEB** アプリを広く宣伝して登録企業にメリットを感じてもらおう工夫が大事だと思う。
- ・**WEB** アプリの事を知らずに寄付してくれる企業に、**WEB** アプリの分かりやすい説明を記したマニュアルを作成し、丁寧に説得に臨めば登録企業が増えるのではないかと。
- ・担当課だけでなく、企業に接点のある市の色々な課にも協力を呼びかけ、倉庫の確保も含め、最終年としてせっかく開発した **WEB** アプリを用いた安定的な活動が今後も展開できるよう、総力を結集すべきと考える。
- ・事業費の多くは **WEB** アプリの開発費なので、その効果が認められるように取り組み方を改善してほしい。
- ・団体が開発した **WEB** アプリの利用が少ないのは、①食品寄贈担当者が食品廃棄物の損金算入の仕組みに理解（知識）がないためか、②仕組みに欠陥（面倒）のどちらかではないかと思われる（あるいは両方）。すなわち、開発した **WEB** アプリの問題ではない。他のフードバンクに聞いても、①の状況を言うところが多く、理解がないにしても、誤解であるにしても、このような状況から食品廃棄物の損金算入の仕組み利用がすすまないと考えられる。
- ・どのような方法でも収入源を確保する必要があると考える。
- ・コロナ禍の中で十分に成果が達成されない可能性が事前に想定される場合は、事業を見送るなどの検討をするべきであった。
- ・このままの形で協働事業が終了した場合、企業への協力要請が進まないということであれば、今後の活動継続に懸念が生じ、貴重な税金を使って何の成果が達成されたのか、使われた税金に見合う成果がでたのか問われてしまう。原因を単に社会状況に求めるのではなく、今の社会状況に合わせた事業展開を検討していくべきではないか。報告会での委員からの意見も参考にしてほしい。
- ・事業本来の目的は、「**WEB** アプリ使用料により収入確保して事業継続すること」だということ念頭に置き、ウェブによる広範囲な対象への周知を検討するなど、**WEB** アプリ利用企業を増やすよう取り組んでほしい。
- ・活動範囲に合わせるために団体名称を変更したと聞いている。より広い区域での活動の中で、新たな **WEB** アプリの契約に努めてほしい。
- ・報告会で委員からの発言にもあった、**WEB** アプリの利用料の呼称の変更など、工夫をして、**WEB** アプリの契約数の確保に努めてほしい。

## C：審査会の意見

事業名	社会環境の変化に対応した地域活動の仕組みづくり支援事業		
事業開始年度	令和3年度～	提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
団体名	NPO法人 湘南NPOサポートセンター	担当課名	協働推進課

## (1) 良かった点（さらに伸ばして欲しい点）

※ 単独より協働でのメリットや、先駆性など事業の良い点・他事業も参考にして欲しい点など

- ・地域活動の現状と課題がアンケート調査の報告書という形で数値化・見える化されたことで、多くの市民が関心を持ち解決に向けて主体的に動くきっかけになったのではないかと、これからの効果に期待している。
- ・全自治会にアンケート調査を実施し、現状を把握した上で地域活動の仕組みづくりを進める方法は期待ができる。
- ・アンケート調査結果報告が作成され、これから調査結果をどのように活かしていくのか興味深い。
- ・自治会アンケートを報告書としてまとめ、誰もがなんとなく課題だと思っていたことが、見える化できたことで、今後活かせる情報源となったことは成果だと思う。
- ・アンケート調査結果等は、地域課題が大変分かりやすく表されていると思う。

## (2) 課題の改善や今後への助言など

※ 改善して欲しい点や今後の事業展開へ向けてのアドバイスなど

- ・アンケート調査結果報告から、現在の組織体制や多岐にわたる様々な既存活動の存続を前提に課題解決を進めていこうとしているような印象を受けた。関心はあっても地域活動に参加していない人たちが読むと、地域活動はとてもハードルが高く、「次世代育成」という言葉からも、より一層負担感が増すのではないかと少し気になった。
- ・担当課が作成している「平塚市みんなのまちづくり事例集」では、地域の特色が活かされた先駆的でユニークな取り組みも紹介されている。市民には、現状課題だけでなく、地域活動の楽しさや新たな発想力で地域活動が気軽に、もっと面白くなる可能性について、伝えてほしい。
- ・アンケートの集計結果、「自由回答結果の解釈に若干の差異があった」とのことだがスムーズに進めるためには団体と担当課の共通理解が必要だと思うので、話し合いを十分に行ってほしい。
- ・モデル地区でのワークショップとはどのような事を考えているのか指針を具体的に知りたいと思う。

- 自治会役員や地域で活躍する人材の担い手不足の課題は大変大きい。この事業で難しい課題が改善されるようアンケートに関わった人だけでなく一般市民にも周知してほしい。
- 市民全体向けに、大きな会場で先進事例発表のフォーラムを開催することを期待している。
- 細かなアンケートを取って自治会の現状は把握できたと思うので、それを基に「社会環境の変化に対応」するにはどうしたらよいかを柔軟な発想で考えてほしい。
- 高齢化と担い手のいない自治会の活性化を考えるだけでなく、自治会以外で地域のための活動をする若者に目を向けてみることも必要なのではないか。
- 地域のための新しい仕組みづくりに期待している。
- 各地の自治会の活動を見ると、すべての人が活発に動いているという事例は少なく、多くても1割というところのように思われる。その1割の人の活動に刺激を受けて、他の人もその活動に関心を持つ（これも多くて3割）。さらに自治会の活動に関心を持つという形でその地域が動くということであろうと思う。そのような仮定に立つとすれば、自治会本体をどう変えるかではなく、自治会自らか、NPOサポートセンターからか、どちらにしても、特定の人でもよいから魅力を感じる（関心を持つ）活動が提案されることがカギであるように思う。
- コロナ禍の中で十分に成果が達成されない可能性が事前に想定される場合は、事業を見送るなどの検討をするべきであった。
- この1年は、アンケートやヒアリングなど検討材料を整える期間であったようであるが、実際に新たな地域活動の仕組みを検討・提案・実施していくことは、大変なことだと思う。最終的に提案される仕組みがおざなりなものにならないように期待している。
- アンケート結果については、今後、一般の市民でも閲覧できるようになるようだが、自治会以外の地域団体と密接に関連する市役所他部署へも周知し、市全体として共通認識を持つ必要があると考える。
- 選定するモデル地区が3地区から2地区に減ったことは残念である。
- 市全域で共通する課題は、アンケート調査結果により確認できたと思う。令和5年度の事業計画の中で、モデル地区でのワークショップやその結果を踏まえ実施される地域の取り組みが、アンケート調査結果から見えた地域課題にどのようなアプローチとなるのかを示してほしい。